

## タイにおける磁場観測と考古磁気学的調査（速報）

### A prompt report of geomagnetic observation and archaeomagnetic research in Thailand

# 家森 俊彦[1]; 橋爪 道郎[2]; 能勢 正仁[3]; McCreadie Heather[4]; Silapanth Praon[2]; Choosakul Nithiwatthn[5]; Chabangborn Akkaneewut[5]; 韓 徳勝[6]

# Toshihiko Iyemori[1]; Michio Hashizume[2]; Masahito Nose[3]; Heather McCreadie[4]; Praon Silapanth[2]; Nithiwatthn Choosakul[5]; Akkaneewut Chabangborn[5]; Desheng Han[6]

[1] 京大・理・地磁気; [2] チュラ大・理; [3] 京大・理 地磁気資料解析センター; [4] 京大・理; [5] Chulalongkorn University; [6] 京大・理・地球惑星

[1] WDC-C2 for Geomag., Kyoto Univ.; [2] Chulalongkorn Univ.; [3] DACGSM, Kyoto Univ.; [4] WDC for Geomag, Kyoto; [5] Chulalongkorn University; [6] Earth and Planetary Sci., Kyoto Univ

<http://swdcwww.kugi.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学 21 世紀 COE プログラムの一環として、2004 年 1 月末より、タイ東北部にある Phimai 観測所に磁力計を設置して試験観測を開始するとともに、周辺に存在する 11-12 世紀の古寺の考古磁気学的調査を行った。中国における偏角測定記録によると、11 世紀前後には、約 15 度西であったが、その信憑性を確認することも目的の一つである。数カ所で測定を行ったところ、真東を向いている遺跡もあったが、大規模な寺院や池が西に約 10 - 15 度程度傾いていることがわかった。その解釈には諸説あるようであるが、コンパスを用いて向きを決めたとすれば、中国における同時代の偏角と調和的である。今後別の地域、年代の遺跡調査も行う予定であり、その結果も合わせて報告する。